

PLAN	No.	24	—	1	基本事務事業名	多面的機能支払交付金事業	事務事業名	多面的機能支払交付金事業	公的関与	9	シート作成日	令和元年7月8日			
	部局名	産業経済部				課名	農地整備課	主務課長名	笠井 和芳		シート作成者名	三橋 英樹			
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☒ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興と森林の保全				☒ 1 該当		平成	年	～	令和	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(1) 第2次農業振興計画の策定				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		農地・農業用水等の保全のための地域農業を中心とする活動組織											
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	阿波市内の遊休農地、耕作放棄地の解消と農地農業用水等の資源や農村環境の質的向上を図ります。											
			今年度												
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 資源の適切な維持保全														
	② 施設の長寿命化につながるきめ細やかな保安全管理活動														
	③ 生態系保全、景観形成など農村の環境を良くする活動														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	最終目標					
	事業対象面積					目標	2150	2150							
						実績	2134	2120							
						目標									
						実績									
						目標									
実績															
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	6	項	2	目	1			
			平成 29 年度決算		平成 30 年度決算		令和 1 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円				
		県支出金	118,253		千円	116,636		千円	129,405		千円				
		地方債			千円			千円			千円				
		その他特定財源			千円			千円			千円				
		一般財源	40,071		千円	38,096		千円	43,619		千円				
		計(A)	158,324		千円	154,732		千円	173,024		千円				
	人件費(B)	正職員工数・経費	1.000 人	5,930	千円	1.000 人	5,805	千円	1.000 人	6,038	千円				
		臨時・嘱託職種	事務職員		事務職員		多面的機能支払交付事業推進員								
		臨時・嘱託工数・経費	1.000 人	2,814	千円	1.000 人	2,814	千円	1.000 人	1,718	千円				
	全体事業費(A+B)		167,068		千円	163,351		千円	180,780		千円				

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	農地・農業用水等の資源は、過疎化・高齢化・混住化等の振興に伴う集落機能低下により、その保全管理が困難になってきている。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	地域ぐるみで効率の良い共同生活を支援することにより、農地・農業用水路等の資源の保全と質的向上を図ります。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	農地・農業用水路等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上が概ね達成されている。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☐ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☒ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	事業主体は、活動計画書に基づいて活動する組織であるため、その全ての実施確認を行うことが、難しくなっている。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		3	4	4	3	A	3	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☒ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	毎年度のように制度の変更があるため、各活動組織に制度変更の周知徹底とそれに伴う事務手続き等の混乱が生じないよう対応が必要となります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	県の行う事務従事者説明会だけでなく、制度変更の周知徹底のため、事務担当者向けの説明会を開催します。					資源の機能維持や地域の活性化を図るため、継続して事業を推進します。				
	委員会指摘事項										

阿波市全庁評価シート 平成30年度実施事業対象

PLAN	No.	24	—	2	基本事務事業名	森林病虫害等防除事業	事務事業名	森林病虫害等防除事業	公的関与	6	シート作成日	令和元年7月8日			
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	笠井 和芳	シート作成者名	中井 卓					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興と森林の保全				☒ 1 該当		平成	年	～	令和	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(7) 森林の保全・育成と活用				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		土柱周辺の自然環境の維持											
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	土柱の景観を維持します。										
				今年度											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 松くい虫の駆除委託(伐倒駆除・樹幹注入)														
	②														
	③														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的 及び活動内容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	最終目標					
	特別駆除		グリーンガード使用本数		本	目標	300	300	300						
						実績	182	177							
	松くい虫による倒木数				本	目標	0	0	0						
						実績	11	1							
						目標									
					実績										
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	6	農林水産費	項	3	林業費	目	1	林業振興費	
			平成 29 年度決算		平成 30 年度決算		令和 1 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金			千円		千円		千円						
		県支出金	757		千円		千円		千円						
		地方債			千円		千円		千円						
		その他特定財源			千円		千円		千円						
		一般財源	590		千円		1,243	千円	3,265	千円					
		計(A)	1,347		千円		1,243	千円	3,265	千円					
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人	593	千円	0.100 人	581	千円	0.100 人	604	千円				
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0	千円	0.000 人	0	千円	0.000 人	0	千円				
	全体事業費(A+B)		1,940		千円	1,824		千円	3,869		千円				

阿波市全庁評価シート 平成30年度実施事業対象

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明	二次評価				
必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	阿波PAに隣接している土柱の景観を保全することは、阿波市の観光資源の開発確保にもなります。また、土柱周辺の森林環境の多様性の保全にも欠かせないものです。		☐ 少ない	☒ 大きい				
	2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある			☐ ない	☒ ある				
	3. 住民満足度の向上のために、現在の手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない			☐ ある	☒ ない				
	4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない			☐ いる	☒ いない				
有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	土柱の景観を保全するには、松は欠かせない樹木の一つであり、現在行っている防除方法は大変有効な手段です。		☐ いえない	☒ いえる				
	2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる			☐ いえない	☒ いえる				
	3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない			☐ する	☒ しない				
	4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる			☐ できない	☒ できる				
達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	事業を取り入れたことで被害は見られなくなった。		☐ 目標に比べて劣っている						
	2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない			☐ あまり上がっていない						
	3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している			☒ 概ね達成している						
	4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している			☐ 十分達成している						
効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	森林環境譲与税を活用することにより事業の継続が可能になり、又、土柱周辺の景観も維持できます。		☐ 高い	☒ 適当				
	2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない			☐ できる	☒ できない				
	3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない			☐ ある	☒ ない				
	4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない			☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	土柱の松林の維持管理に努めます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	毎年度、計画的に松くい虫の駆除を行います。					風致景観の維持のため、継続して事業を実施します。				
	委員会指摘事項										

PLAN	No.	24	—	3	基本事務事業名	鳥獣被害対策事業	事務事業名	鳥獣被害対策事業	公的関与	2	シート作成日	令和元年7月1日			
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	笠井 和芳	シート作成者名	古山 佳彦					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☒ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☒ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興と森林の保全				☒ 1 該当		平成	年	～	令和	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(3) 農用地の保全				☐ 2 非該当		根拠法令等		鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律			
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)	市民(農業従事者)												
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	有害鳥獣による農作物及び山林の被害を軽減します。											
			今年度												
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 鳥獣被害の調査及び聞き取り														
	② 有害駆除の申請手続き														
	③ 駆除の実施														
	④ 新規狩猟者の育成(狩猟免許取得費用の助成)														
	⑤														
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	最終目標					
	駆除回数				回	目標									
						実績									
	狩猟免許取得者数				人	目標									
						実績									
	被害額				円	目標	2,880,000	2,880,000	2,880,000						
					実績	1,318,768	3,073,496								
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	6	農林水産業義	項	3	林業日	目	1	林業振興費	
			平成 29 年度決算		平成 30 年度決算		令和 1 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円		平成29年度から数値目標の変更						
		県支出金	2,719 千円		4,504 千円		5,545 千円		また、H30以降の数値について						
		地方債	千円		千円		千円		は、予算細目の鳥獣対策事業費						
		その他特定財源	千円		千円		千円		の金額及び阿波市有害鳥獣捕獲						
		一般財源	4,098 千円		5,765 千円		5,987 千円		対策協議会予算の数値を入力し						
		計(A)	6,817 千円		10,269 千円		11,532 千円		ている。						
	人件費(B)	正職員工数・経費	1.500 人	8,895 千円	1.500 人	8,708 千円	1.500 人	9,056 千円							
		臨時・嘱託職種													
臨時・嘱託工数・経費		人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円								
全体事業費(A+B)		15,712 千円		18,977 千円		20,588 千円									

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	農作物等の被害防止のため、重要な施策です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	イノシシやサル、カラスを管理捕獲することにより、頭数の削減や出没回数減少につながっています。捕獲だけでなく、それに併せて進入防止柵などの整備を進めていくことも必要です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	有害鳥獣の捕獲でワナ等を仕掛けることにより、捕獲できなくても、イノシシやサルが近寄らなくなったとの声があります。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	鳥獣の種類、駆除方法により効果が異なります。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☒ ある	☐ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		3	4	3	3	A	3	4	3	3	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	狢友会員数が減少していく中で、どのようにして、被害を防いでいくのが課題です。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	引き続き、狢友免許取得費用の補助を行います。また、人がいなくても農作物等の防除が出来るように、管理捕獲と併せて進入防止策の整備を進め、捕獲と防除の双方の観点から農作物等の被害の減少に努めます。					有害鳥獣による農産物の被害を防止するため、継続して防除や捕獲など総合的に対策を進めます。				
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 平成30年度実施事業対象

PLAN	No.	24	—	4	基本事務事業名	治山整備事業	事務事業名	県単治山事業	公的関与	9	シート作成日	令和元年7月8日		
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	笠井 和芳	シート作成者名	古山 佳彦				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託			
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興と森林の保全				☐ 1 該当		平成 27 年 ~	令和 2 年	☐ 期間設定なし		
		主要施策		(7) 森林の保全・育成と活用				☒ 2 非該当		根拠法令等	徳島県林業関係事業補助金交付要綱			
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		治山事業が必要な地域・箇所										
		目的(どうい う状態にし たいのか)	最終的	市民また地域住民が安心して生活できるよう山林の環境・基盤の整備を行います。										
			今年度											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 治山工事の現地調査と施工													
	② 測量設計事務													
	③													
	④													
	⑤													
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	最終目標				
	工事箇所	目標			箇所		1	1	1					
		実績					1	1						
		目標												
		実績												
		目標												
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	6	農林水産業費	項	3	林業費	目	2	治山費
			平成 29 年度決算		平成 30 年度決算		令和 1 年度予算		備考					
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	1,500 千円		1,500 千円		1,700 千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	2,091 千円		2,205 千円		2,100 千円							
		計(A)	3,591 千円		3,705 千円		3,800 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人	1,186 千円	0.200 人	1,161 千円	0.200 人	1,208 千円						
		臨時・嘱託職種												
		臨時・嘱託工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円						
	全体事業費(A+B)		4,777 千円		4,866 千円		5,008 千円							

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	阿波市においては、山林面積が広く治山関係の改修工事必要箇所も多くあります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	県の補助事業を有効に利用します。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	治山の危険個所の整備ができます。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	毎年の事業の実施により整備が進みます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	近年の異常気象による大雨等により、保安林の地すべり及び山腹等の崩壊が危惧されます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	毎年度、危険箇所を点検し、整備を図ります。					治山事業は、保安林を守り、森林の持つ多面的機能を維持するために必要です。事業を継続します。				
	委員会指摘事項										

PLAN	No.	24	—	5	基本事務事業名	林道整備事業	事務事業名	県単林道事業	公的関与	2	シート作成日	令和元年7月8日			
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	笠井 和芳	シート作成者名	中井 卓					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興と森林の保全				☒ 1 該当		平成	年	～	令和	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(7) 森林の保全・育成と活用				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		市民等の森林所有者及び関係団体											
		目的(どうい う状態にし たいのか)		最終的	林業の生産性の向上を図り、林業農家経営安定のため林道の整備を行います。										
				今年度											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 林道の管理と整備														
	②														
	③														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	最終目標					
	改良工事				箇所	目標									
						実績									
	工事達成率				%	目標	90	100	100						
						実績	90	100							
						目標									
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	6	農林水産業費	項	3	林業費	目	2	治山費	
			平成 29 年度決算		平成 30 年度決算		令和 1 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円				
		県支出金	1,575		千円	1,800		千円			千円				
		地方債			千円			千円			千円				
		その他特定財源			千円			千円			千円				
		一般財源	2,388		千円	2,898		千円	0		千円				
		計(A)	3,963		千円	4,698		千円	0		千円				
	人件費(B)	正職員工数・経費	2.000 人	11,860	千円	2.000 人	11,610	千円	2.000 人	12,075	千円				
		臨時・嘱託職種													
		臨時・嘱託工数・経費	0.000 人	0	千円	0.000 人	0	千円	0.000 人	0	千円				
	全体事業費(A+B)		15,823		千円	16,308		千円	12,075		千円				

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	森林の施業計画の達成のためのアクセス道路として必要な施策です。また、森林の整備はカーボンオフセット・水源確保・防災には欠かせない事業です。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	森林の持つ多面的機能を発揮させるためには施業が欠かせなく、そのためには林道は大変有効なアクセス手段です。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	危険箇所の林道については、概ね整備できています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	現在のところ適当です。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	林道改良事業の危険箇所については、概ね整備は完了しました。今後は、適切に維持管理に努めます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	毎年度、林道の危険箇所の点検を行い、整備等を図ります。					林道は、森林管理に必要であることから、適切に維持管理を行って行きます。				
	委員会指摘事項										